

薬草園やくそうえん

薬草園とは厚生省国立衛生試験所春日部薬用植物栽培試験場をいう。この試験場では薬用植物の栽培と品種の改良およびこれらに関する研究、内・外国産の植物栽培と研究および薬用植物の種苗の収集・配布ならびに外国との種子の交換・標本の作成・薬用植物の栽培の指導・標本薬用植物の栽植および調査等を行なっている。

試験場の敷地は約二一、〇〇〇平方トイで、この中に標本園二、一三〇平方トイ、圃場八、五五〇平方トイ、温室二棟がある。試験植物は約三千種に達している関東地方唯一の試験場で、我が国初の薬用植物試験場である。

大正十一年四月内務省東京衛生試験所に薬用植物栽培試験部が設置されて、薬用植物調査会粕壁試験地であったものが同部に移管されて内務省東京衛生試験所粕壁圃場として開設された。

昭和十三年一月厚生省が設置されて、内務省から厚生省に移管され、厚生省東京衛生試験所粕壁薬用植物栽培試験場と改められた。昭和二十三年四月、東京衛生試験所の薬用植物栽培試験部を植物部と改称、その管轄下に入る。昭和二十四年十月、国立衛生試験所薬用植物園春日部分場と改称、昭和三十四年四月、国立衛生試験所春日部薬用植物栽培試験場となった。

この試験場内の旧館（木造）や温室と場内の古木は開設当時のものである。この試験場では開設以来「ケシ」の栽培が有名である。五月の開花期には優美な白色の花が咲き乱れて見事である。「ケシ」は未熟な果実の乳液から「アヘン」が採取されるので、一般には栽培が禁止されている。栽培期の圃場は金網で保護されている。乳液の採取は早朝に果実の表面に薄刃で傷

がつけられ、にじみ出た乳液が外気にふれてかつ色に乾燥するのを待つて、夕方圃場を巡回して採取器に削り落として集めるので多くの人手を要する。このような原始的な方法で行なっているが、最近は「ケシ」を刈り取って乾溜する方法も研究されている。

春日部試験場には、都内の薬科大学の学生が単位修得の目的で参観と実習に訪れている。また、外国の学者も多数訪れるので地元の人達にはなじみは薄い、これらの人々には春日部の名はよく知られている。

この施設が当市にあることは前身の圃場創設者である仲町の金子七右衛門・操一氏の苦心と努力を知る必要がある。

この施設の創設は明治十六年金子七右衛門が薄荷栽培はっかに着手したのが始まりで、操一氏まで三代にわたり薬用植物の栽培試験を進め、各種の貴重な機器の考案等に努力し（なかでも蒸溜装置は、今もその価値を高く評価されている）我が国製薬業の発展の端緒を開いた功績は偉大である。

試験場は、春日部のほかに和歌山（昭和十六年）、伊豆（昭和二十二年）、種子島（昭和二十九年）、北海道名寄（昭和三十九年）にそれぞれ設置されている。

初出「広報かすかべ 昭和五十二年十月」かすかべの歴史余話